

## マタイの福音書 26 章 36-46 節「苦難の中での祈り」

吉持 尽主 牧師

イエス様は十字架に架かる前夜、ゲツセマネの園で祈りをささげました。この時、イエス様は自らに課せられた試練、苦しみゆえにもだえ、深い悲しみの中にいました。この苦難の中でイエス様は次のように祈りました。

「わが父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。しかし、わたしが望むようにではなく、あなたが望まれるままに、なさってください。」

ここには2つの祈りがあります。まずは試練や苦しみを取り除かれることを願う祈りです。イエス様は自らの赤裸々な思い、自分の願いを祈ったのです。

しかし、イエス様は同時に「神様のみこころを求める」祈りをされました。私の願いのようにではなく、あなたのみこころがなりますようにと祈ったのです。あなたの祈りは今どのような祈りとなっているのでしょうか。自分の願い、自分の思い、自分の計画だけを祈る、エゴイスティックな祈りとなっていないのでしょうか。そして、祈りの恵みの基準が自らの願いが実現したかどうかで判断していないのでしょうか。それも祈りの恵みのひとつですが、それだけでは本当の意味で祈りの恵みにあずかることはできないでしょう。

イエス様の祈りは「神様のみこころを求める」祈りでした。イエス様の祈りは、祈ることを通して、神様のみこころとして試練や苦しみを受け止め、自らの身を神様に委ね、神様の導きに希望を抱くものでした。これこそ、神様・イエス様を信じる者の祈りの真髄です。

イエス様はこの祈りを通して、最も大きな受難である十字架へと向かわれました。

私たちも苦難の中で「神様のみこころを求めて」祈る時、苦しみの中で立ち上がっていく力と希望が与えられていきます。この祈りの先には、たとえ自分の願った通りでなかったとしても、意気消沈することなく、神様のみこころとして受け止めて、希望を抱いて前に進んでいく歩みがあります。

そのためには、イエス様のように、ひとりで祈り、何度も長い間祈り続けていく必要があるでしょう。神様は私たちの想像を遥かに超えて働かれる方です。簡単には神様のみこころを知ることはできないかもしれません。

しかし、諦めずに、この箇所を示されている神様の約束を信じて、祈り続けるとき、必ず希望へと至ります。だからこそ、苦難の中で「神様のみこころを求める」祈りを諦めずにささげ続けていきましょう。